

女性と社会のつながり支援事業【福岡県】

個別事業費	14,637 千円
交付金額	10,978 千円

地域の実情と課題

- 長引くコロナの影響により、生活環境の変化、女性が多い非正規労働者の収入減による将来への不安、DV被害の増加や深刻化の懸念など、女性を取り巻く様々な困難さが増大し、社会とのつながりが希薄になっている。
- また、困難や不安を抱えながらも自ら支援を求めない女性に対して、様々な専門機関の支援が届きにくい状況となっている。

目的・目標

- 様々な困難や不安を抱える女性に対し、NPO等民間団体の知見や能力を活用し、安全・安心な場所を提供するとともに、就労支援や生活支援等を行う専門機関へつなぐ。
- 特に、心に深刻な問題を抱える女性に対して、アウトリーチによるメンタルケアを公認心理師等が行い、次の専門機関への支援にスムーズにつなぐ。

事業の特徴

NPO等とのネットワークを活用した子ども食堂・フードバンク等での声かけや相談支援を実施。

連携団体

つながりサポート団体等連絡会議

事業の効果

- 女性に対し、街頭や子ども食堂で30回以上声かけを実施するなど、積極的にアウトリーチを実施。
- 居場所提供を行うフリースペース等の利用者数は260名を超えたほか、フリースペースの利用を通して利用者と支援者との関係を構築し、相談や支援につなげるケースも見られた。

今後の課題

相談内容の多様化、複合化に対応するためには、女性支援に携わる複数の民間団体との連携・協力が必要。このため、支援者間の情報共有の場の構築や、民間団体のスタッフのスキルアップを行うための財源確保が必要。

女性と社会のつながり支援

コロナ禍において不安を抱える女性が、社会とのつながりを回復することができるよう、NPO等民間団体の知見や能力を活用したきめ細かい支援を実施。

(1) アウトリーチ型相談支援

街頭声掛け、こども食堂・フードバンク等での声掛け、電話・メールやSNSによる相談支援、面談、就労支援や生活支援を行う関係機関へのつなぎ・同行支援等

(2) 居場所の提供

一時的な保護が必要な女性に対する日常生活上の支援や相談支援の実施、フリースペースの設置

(3) 生理用品の提供

支援の対象となる女性に対して、相談支援の一環として生理用品を提供

(4) 関係団体等との情報共有

女性支援に取り組む団体及び県の関係課との情報共有を行い、専門機関へつなげるための連携・協力を図る



街頭での声掛けの様子



フリースペース